

先生から見た4月から始まる完全学校週5日制とは？

美濃加茂市立東中学校

野尻政俊教諭に聞いてみました。

4月から学校は完全週5日制になります。それに伴い、教科の時間が減ります。それだけに、各教科の基礎・基本の定着がいつそう重要になります。その一方、「総合的な学習の時間」や選択教科の時間が増えます。

この時間のねらいは生徒たちに幅広い視野を持たせるとともに、「生きる力」を身につけさせることです。ここでいう「生きる力」とは、課題をよりよく解決しようとする能力、資質及び自分の生き方を前向きに振り返る姿勢、態度です。現在、総合的な学習の時間については、試行の段階ですが、来年度の完全実施に向け、指導計画などをさらに吟味しなければならぬと考えております。

生徒たちが主体性を持ち、土・日曜日を

どう前向きに生活するかが問われることに

改訂された新学習指導要領では、各学校において柔軟なカリキュラムを組むことができるようになります。例えば、中学校で2時間分の授業時間100分を、国語の授業を20分、理科の実験を80分というように組み合わせることができるようになります。

このような授業形態を組むことは教科担任制の中学校ではむずかしい面もありますが、検討すべき課題のひとつだと考えています。



生徒たちは従来にはなかった授業を受けることとなります。「福祉」や「環境」などの各学校の裁量による多様な授業内容が考えられます。このような学習をしなければ私たちがすれば、うらやましくも感じます。また、こうした学習を行うことにより、家庭での会話が増えることを期待しています。

教科の授業時間が減ることにより、学力低下を心配してみえる保護者の人も多いかと思われれます。しかし、

単なる知識の習得は急激に変化する現代社会において、あまり意味がない気がします。個人的には社会で生きていく力を育む「総合的な学習の時間」や選択教科の拡大に賛成です。学力低下を心配されてわが子を塾に通わせることを考えられる家庭が増えるかも知れません。しかし、塾でも習い事でも「あの子が行くなら」などの安易な理由では意味がないように思います。

子を持つ親は、なぜ学校が週5日制になるのかを知る必要があると思います。第一に家庭教育の充実ということがあげられると思うんですけど、子どもにゆとりのある生活を送ってもらうことが大事だと思っております。

4月から学校が週5日制になり、土曜日が完全に休みになるというところが、はたして子どもたちのゆとりのある生活になるのかな？とは個人的には思います。ただ、「土曜日・日曜日」は誰かが子どもを見てくれる」という意識を捨て、家庭においてこのことを前向きに考え、土曜日・日曜日の過ごし方を家庭内で子どもと親と一緒に考えるというチャンスをもらったと考えるべきじゃないでしょうか。

完全学校週5日制は土・日曜日の過ごし方を

親子で考えるチャンスと考えるべき

子どもたちの土曜日の過ごし方の一つとして、小学校の低学年のための文化・スポーツクラブを立ち上げようという動きがありますが、土曜日は（保護者の）皆さんが仕事を持ってみえるため、地域の人たちだけで子どもたちといっしょに活動することはなかなか難しいと思います。ですから学校、地域、親（PTA）

ことで、授業時間が減少し、子どもたちに応用力をつける授業として、

学校で習ったことにより応用力をつけたいとか、もっと勉強したいという気持ちや、親が持つことで、子どもを塾を行かせることもなくなってくると思っております。



完全学校週5日制は、一番小さな社会である家庭できちんとしつけができなければ、社会に出て子どもは対応できないということを考えてほしいと、学校側から与えられた機会なのではないかと思っています。